

普段無口な鬼瀬さんと
今日は初デート！

…のはずが

鬼瀬さんによって
僕の体はいきなり
親指くらいまで
縮められてしまった

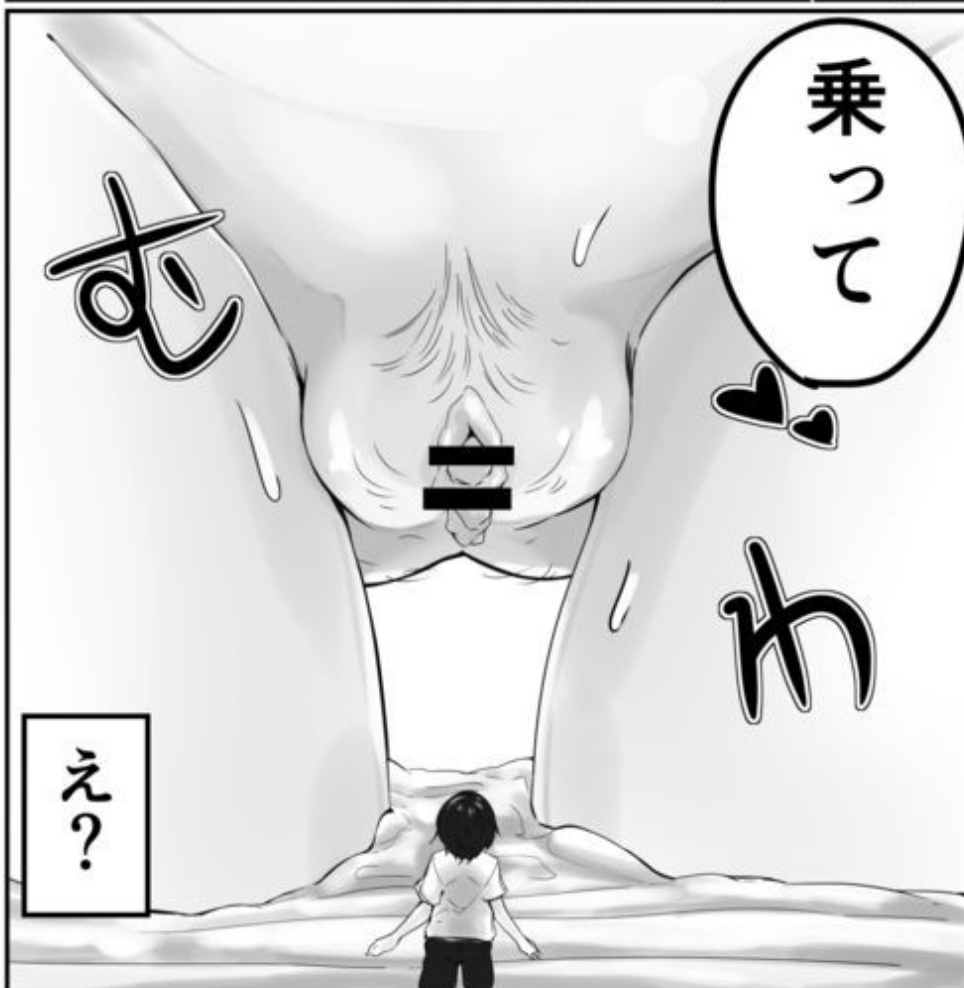


あの…
鬼瀬さんがサイズフェチっていうのは
以前少し聞いたけど
今日はデートで
出かける予定だよな？
こんな小さくされたら
街中で鬼瀬さんに
踏み潰されるかもしれないし
まともにデートできないよ？

ズ
ズ



いや…
ちゃんとデート…
できるよ？



たじゅん...

巨大な秘音が
視界を覆うのみで

む わ 全 あ

顔すら
見えない

顔を上げて
聞いてみても

まだ恐がってないのかな……
じゃあもつと小さく

うわっ！

L43,

それにしても
パンツだけでデカイ……
布の海みたいだ

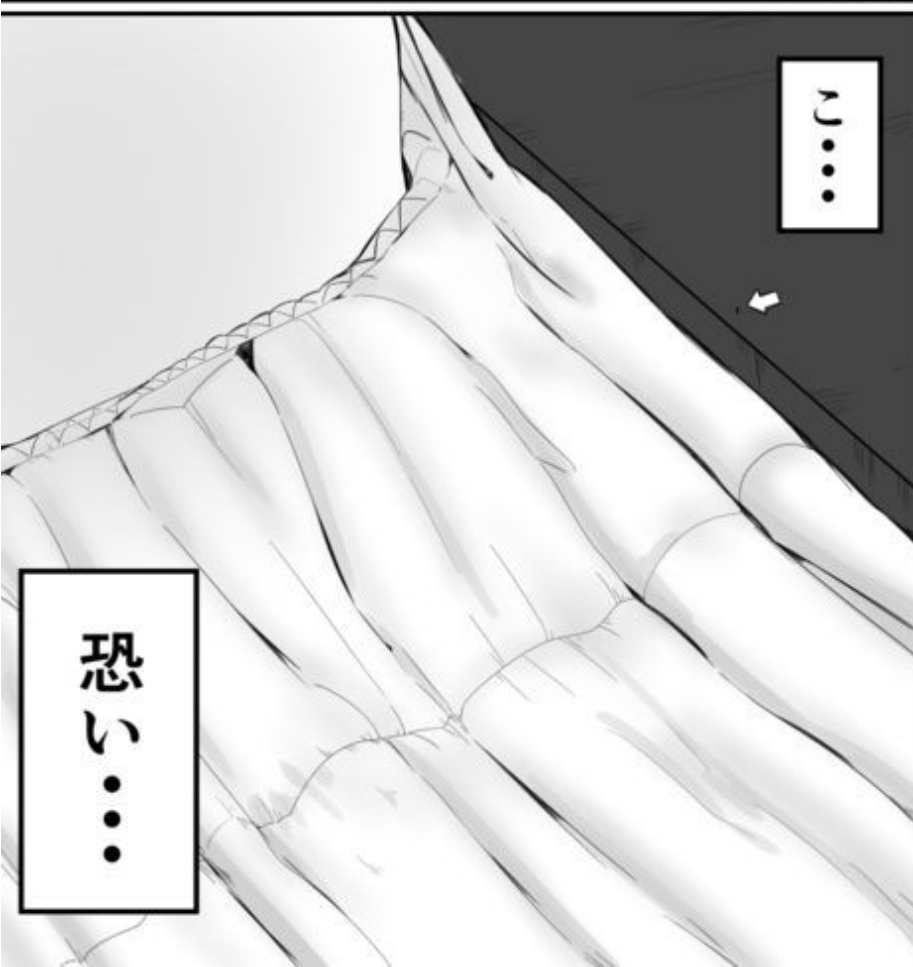
などと思っていると

なんだか
恐ろしいことを
つぶやきながら
更にめちやくちや
小さくされて
しまった

そうして



ちよっと い
小さくしすぎ
ちゃったかも……



こ……

怖い……



これが
鬼瀬さん？

乗って♡

こんなの

ビリ

どり



う——

けれど
もう鬼瀬さんの
言う通りにしないと

今度は
乗ってくれたね

イイ子
イイ子
イイ子♡

そう思ってしまった
時にはすでに体が
動いていて

鬼瀬さんの
甘い香りと汗やおしっこの
匂いが充滿した

とてもジメツとした
空間で

「デート」が終わるまでの数時間
すさまじい歩行の衝撃に
必死に耐えるしかなかった

大木のように
太くなった陰毛にしがみつきながら

図書館とかどう？

じゃあデート
行こっか

はぁ♡♡♡

後で聞いたところ
僕はこの時
千分の一まで縮められていた
らしく